

コミ文って、こんなところ

● 土 屋 博 映

「ごきげんよう」

土屋博映こと、「つっちー」です。

平成21年12月5日、入学前オリエンテーションがおこなわれました。40名ほどの新入生が元気よく参加し、元気よく自己紹介をしてくれました。新入生があんなに元気よく挨拶ができるとは思いませんでした。おかげさまで楽しい有意義なオリエンテーションとなりました。実はその背景にはスタッフたちの、オリエンテーションの内容をどうしようかという動きが働いていたのです。「新入生の自己紹介」の発案は、この私だったのですが、それでも足りないときは（恐らく自己紹介だけでは足りないと推定していました）、私が「コミ文って、こんなところ」という内容を15分間ほどで話すことになっていました。ところがみなさんの積極的な自己紹介で、その談話が、いい意味で「没」になってしまったのです。

そこで、この場をかりて、その内容を記したいと考えました。「コミ

文」という学科について、新入生はもとより、先輩在学生についても、再度見直してほしいということと、「コミ文」への思いを深めてもらいたいと願ってのことです。

「コミュニケーション文化」学科という名称は「コミュニケーション」には「文化」が強く関わっているということに由来すると考えます。よく「ことば」と「文化」、といわれますが、私に言わせれば、「ことば」そのものが「文化」ということです。

今年も流行語大賞が発表されました。大賞は「政権交代」でした。この一言で、変革の一年であることがわかります。それにより、世の中の仕組みが変わりますから、文化の上にも、目に見える、見えないに関わらず、「交代」が起こるということになります。

たとえば。高速道路が無料化されれば、車文化、旅行文化、休日文化など、大変な変化がおこります。「政権交代」はそういう世の中を暗示し

ます。つまり文化の変化も意味しているわけです。

やや強引な例でしたが、「ことば」を「コミュニケーション」と置き換えることが、可能とすれば、「ことば」(コミュニケーション)と「文化」は密接に関わっているということです。「コミュニケーション文化学科」の存在意義は、コミュニケーションに、文化を強く関連付けたところにあるということなのです。

コミュ文で以前配布した資料に次のようなものがありました。

「コミュニケーションの専門家がいま不足しています。コミュニケーション—水のような、身近でありきたりな営み。だけど、コミュニケーションが枯渇した世界は水のない砂漠のように死にゆく世界。戦争、争い、心の傷、すべてはコミュニケーションの欠如や失敗の結果です。I.T. などテクノロジーの発達によってどんどん小さくなってゆく我々の星、地球に新たな生命を吹き込むため、今、コミュニケーションの専門家が大量に必要とされています。」

ここに記されたように今、「コミュニケーションが枯渇した世界」となりつつあります。では、なぜコミュニケーションが「枯渇」してしまうのでしょうか。それはコミュニ

ケーションが、言語だけで成立していると考えるところにあります。コミュニケーションとは異文化の相互交通です。言語の背景には、その言語にともなう文化が必ず存在します。その文化は言語よりも、民族の本質を示すと言っていいでしょう。身近なところでも「おとうさんとおかあさん」は本来異文化でしたし、「私と彼氏」はもちろん異文化です。仲がいい夫婦・恋人たちは、お互いを理解しようという姿勢があります。だからコミュニケーションがうまくいくのです。つまり、異文化の理解がなければコミュニケーションは成立しないということがこの例でも明らかです。極端なことを言えば、民族の数はおろか、人間の数だけ異文化が存在すると考えてもいいくらい、世の中は恐ろしいほど異文化に満ち溢れているのです。「異文化」はまた、それぞれの「価値観」を持っています。だから価値観の多様性の理解が必要になってきます。異文化を認める姿勢がなければ、コミュニケーションそのものも成り立ちません。方言を聞いて笑う人、これは異文化を知らない、価値観の狭い、コミュニケーションのできない、かわいそうな人間という烙印をおされることになります。

オープンキャンパス模擬授業で話したことがあります。それは、文学部各学科を例にとって、「人文は書物との、臨床は患者との、コミュ文は文化との、コミュニケーションである。」ということです。つまり、学問はすべてコミュニケーションにつながるということ、極論すれば、世の中はコミュニケーション無しには成立しないということなのです。

そこで、コミュニケーション文化学科の重要性が浮かび上がります。次のようにも述べました。「日本語を学び、日本文学を学び、日本文化を学び、パソコンを学び、語学を学び、それらをコミュニケーションの上達に役立てる、現代で最先端に行く学科です。もちろん社会がもっとも注目しています。」ということです。コミュ文の学生は、「視野が広がった。世界が広がった。役に立った。」という感動に到達します。つまらない話のおしつけではありません。実践的であきない、楽しい、役に立つ、ということ、これがコミュ文の特長です。「聞き方、話し方、読み方、書き方」を実践的に学ぶことで、「世の中の事件とか政治まで」自分の考えを主張できるようになります。

こんなことも述べました。「学問とは大学での勉強を言います。高校

などで学ぶのはあくまでも基礎力です。高校までは、全国共通の基礎を学びます。大学は独自な見方をします。常識を打ち破る、価値観の多様性に気がつくことが求められます。世の中の仕組みをいろいろな角度から見つめ、追求します。極論すれば、高校までは常識を教え、大学では非常識を教えるということになります。」ということです。

たとえば、日本語の音節は母音で終わるという原則があります。五十音でそれはよく聞かされてきました。「きいろ (黄色)」の「き」も、「きしゃ (汽車)」の「き」も同じだと信じ込んでいます。そう教えられてきたから当然です。ところがこの二つの「き」は音が違うのです。同じ「き」ではありません。試してみてください。そういう非常識を知ることこそ、本当の世の中の仕組み、ひいては異文化を知ることにつながります。

私の人生観の根本には、「人間は動物である」という理念があります。では、動物がどうして人間になれるのかといいますと、「人類の歴史は動物から離れる歴史である」ということにつながります。「遺伝」が血の歴史とすれば、「環境」は文化の歴史です。どちらも長い、長い人類

(宇宙)の歴史を背負っています。祖先が積み上げてきた文化を纏うことにより、人間はより人間となるのです。だから、現在をよりよく生きるために、文化を学び、コミュニケーションを磨かねばならないのです。世の中の仕組み(文化)を知らずに衣食住している人間は限りなく動物に近いということになります。かねがね、仲のよい女子大生同士は、衣服が類似しているし、スタイルや顔つきまで似ているのです。まさに「類は友を呼ぶ」ですね。そうです。動物的本能で、文化的に近い人間を友人とするのです。だから学問を深めれば深めるほど、文化を深化させることになり、より高いレベルの友人ができるのです。「切磋琢磨」しましょう。仲間とともに。

次に各学年の先輩たちのレポートを掲げます。参考にしてください。

プロゼミ(1年生)

コミュニケーションの実践の一つとして位置づけます(プロゼミは全学共通です)。自由課題を与え、レジュメと発表につき、評価をさせます。その評価の文です。

「今回のレジュメで1番良いと思ったのは、4番のITさんのレジュメです。理由はまずテーマが1番気になったことと、図と文章の割合が

良かったからです。図には、番号がふられていて、文章にも下線が引いてあり、ポイントが分かりました。見出し(項目)が書いてあるのも良いと思いました。手書きの文章が、少しくセ字なのと、参考資料が載っていないのは気になりました。2番目に良いと思ったのは2番のIKさんのレジュメです。IKさんは、話の順番が書かれていたので、内容がすぐに分かりました。メリットとデメリット、まとめが書かれていたのもポイントだと思いました。太字になっているところはインパクトがあり、目立っていて良いと思いました。イラストや写真も、工夫しているなと思いました。今回はテーマが自由課題だったので、どの人のテーマも興味があるものばかりで、選ぶのが難しかったです。画像を載せたり、カラーにした人が目立ちました。手書きで書いている人も4人いましたが、その場合は、文字の大きさと、クセを注意することが大切だなと思いました。レジュメ優秀者：4番、ITさん。目標：それぞれのレジュメの良い所を比較する。」(1年KMさん)

これは発表者のレジュメを発表前に読み、分析し、客観的に評価する実践です。なお授業開始時に必ず「本日の目標」を設定させます。また、

発表者の評価も発表後にさせます。

次に2年生のレポートです。

ディベート（2年生）

この授業は、感情を交えずに、議論し、結論を出すというもの。裁判を想定すればよいです。自分と反対の立場に立って議論するところに、客観性が身につくという実践です。

「死刑は廃止すべし」というテーマに対し、賛成・反対の意見を掲げます。①は結論（判定）、②は賛成の立場での意見、③は反対の立場での意見、④で再び結論（判定）、という「一人ディベート」という形をとります。「一人ディベート」は私のアイデアです。

まずは賛成意見から。

「①賛成。②死刑があった方が、連続殺人など悪質な犯罪者を後悔と反省をさせることができます。また、死刑があればその判決を恐れ、犯罪者を減らすことができるかもしれません。被害者の家族にとっても自分の家族が殺害され、容疑者に対し死刑になってほしいと望むと思います。③しかし、犯罪者を死刑にすることで、犯罪者が自分の犯した罪を反省できない人もいます。犯罪者によっては死刑判決を下されたいが為に罪を犯す人もいないし、臨んでいなくとも、

自分が死刑になることに恐れがない人もいます。そのようなことを考えると、死刑という制度は廃止し、終身刑にした方がよいと思います。重い罪を犯した犯罪者は一生を刑務所で生活し、その間に、自分がどれだけ思い罪を犯したのか、被害者や家族、自分の家族にも悲しい思いをさせたということを理解させることが一番大事だと思います。④この世に生れた命を死刑によって簡単に落とすことはせつかく人間に生れたのにもったいないと思います。感情をもっているのだからこそ更正させ、一生被害者への後悔の苦しみを抱えながら終身刑で、正しい生き方をしていくべきだと思います。」
(KRさん)

次に反対意見です。

「①反対。②現在、日本は少子高齢化という問題を抱えています。人口が年々減ってきている日本では、1人でも多くの人に長生きしてもらうことが少子高齢化にもつながるのではないかと思います。また、死刑とは相当思い罪を犯してしまった人にくだされるものです。罪を犯してしまったことは絶対に許されることではありませんが、れっきとした人間には変わりはありません。自分の罪を一生でも抱えて生きぬくべきです。③もし、自分の家族や親戚が殺

されてしまったら私はその人にも同じようにしてほしいと思います。自分の大切な人はもういないのに、犯罪者が生きているのは絶対に耐えられません。そして、今、無差別殺人が増えてきていると思います。何故そんなことをするのかと本当に腹が立ってしまいます。命の大切さ尊さを知らないから、そんなことをするのだと思います。死刑執行では償いきれないと思いますが、死刑執行が最低限度の償いではと考えます。④死刑は1番重い罪です。しかし、それなりの罪を犯した人にだけくだされるものです。被害者側の心の傷は、どうしようとも消えません。最低限度の償いが謝罪にもなると思いますが、よって、反対です。」(KAさん)

以上二人の意見を比較して、みなさんの判定をしてみてください。

次は、4年生です。

文化学演習(4年生)

様々な古典文学を発表者がレジュメを作成の上、発表し、聞き手の学生が質問し、評価するというプロセスで、古典を現代にひきつける、つまり古代とのコミュニケーションを実践しようという授業です。テーマは「中世の文学と現代の思想」。

「現代と人々の境遇は違ってきているにも関わらず、読んでみると共

通点も多い。たとえば平家物語では敵である人物が自分の子供の年齢と近く、助けたいと想う心がとても強く伝わった。戦国の武将たちは皆名をあげるためならなんでもするような考えだったのだろう、と日本史の授業を学んだだけでは一側面しか見えていなかった。しかし父親のような想いを敵に持つてしまう情があったり、討ちとられることを受け入れた少年敦盛の男らしさだったり、中世の人々にも現代思想と通じるところがあるのだということは発見であり、嬉しいことである。他にも「道成寺、花や散るらん」では、思想だけではなく感覚までも近いのだと分かった。男性への想いや、思い出が五感を通して、思い出されたり、怨霊になってまで想い続けてしまう女性の執念深さ、良い意味での一途さ。読んで悲しくなるくらい理解してしまうのは現代の思想とそんなに変わらない人間らしさという根底があるからなのだろう。文学を理解していく、読み解いていく上で、こういった思想での共通点があるとより深く結びつけて理解が出来るし、そうして文学を理解していくことがその時代を生きた人の息づかいを感じとることだと考えた。」(YMさん)

古典を学ぶことは「現代に活かすこと」、それを理解させる授業です。

YMさんはしっかりそれを把握しています。

次は、授業の番外編、埼玉県の「いきがい大学」(60歳以上が入学資格)との交流に参加した学生のレポートです。

「討論会に参加して、とにかく色々吸収する事がいっぱいありました。私が想像していた以上にいきがい大学の方々は凄く生き生きとしていて、「私も負けてられないな」と思いました。そして、少し落ち込みました。いきがい大学の方々に「結婚観」や「就活について」を質問された時に、今までの自分は本当に受身でしかなかったという事にあらためて気づきました。生きてきた環境も、生き方も全然違う方。だけど、やはり立派だなと思いました。物事への実行力にしても、考え方にしても「ただ生きてきた」とは言えない何かを一人一人が持っていました。話をしたりして見て、自分が凄く未熟者だと気づき、落ち込んでいますが、昨日あの場所で、あの方々と話す事ができたのはとても貴重な体験だと思いました。また、2学年違う3年生と関わられたのもとても貴重な体験となりました。就活をしている分、受け答えも上手く、考えもしっかりしていたのが、やはり3年生は

凄い!と思う瞬間でした。この経験を糧に残りの学生生活を有効的に使います!」(1年MMさん)

「いきがい大学」課外講座は、本学新座キャンパスで12月4日に行われました。午前は私の講義、午後はクラス別の討論会。おじさま・おばさま対、花の女子大生との討論会、なかなか有意義だったようです。22年度も行う予定です。是非参加して異文化を体験してください。

最後に「文章論」の受講学生のレポートを掲げて本稿のまとめとします。コミュ文3年、同一人物の同一時間のレポートです。持ち時間各10分。「意味」と「意義」がテキストのテーマ、「愛する」と「恋する」を、応用問題として課したものです。説明不要、文章のすばらしさを実感してください。

1、「意味」と「意義」 コミュ文3年 YIさん

「意味」には比喩的な使い方が出来ると思います。微かであいまいな分、一つの「言葉」や「物」に対していくつかの意味を与えることが出来るのではないのでしょうか。

例えば「花束」

- 感謝 ○愛情 ○友情
- 時には嫌味

このように一つの物に対して色々な「意味」を持たせて動かす事が出来るのです。短歌などでもこういったことをしています。

ただ、あいまいな分、悩む原因になることも多々あります。

○「愛する意味」 ○「生きる意味」
これらはすべて、「答えのない問い」である。すべてに「自分で！」答えを見出しつつつけ加えてゆくことができるのです。

それは「意義」もそうです。「正義とは？」と問われてもすぐには答えられないし、正解なんてものは無いですよ。なぜなら「意義」は一本筋を通さなくてはならないからです。絶対に自分の中でブレてもゆれてもいけないものなのです。

生きていく上で必要な「義理人情」は頭のとっぺんから体の中までしゃんと通して真直ぐしている人が行える一つの「正義」だと思ふんです。

あいまい「意味」の美学とまっすぐ一筋な「意義」の正義を考えます。

2 (裏) 「愛する」と「恋する」 コミュ文3年 YIさん

「愛」は動詞で「恋」は名詞というのを良くききます。そして「片思い」は恋だけ、思い合えるのは愛、つまり「愛し合う」。これらをふまえて考えると「愛」は無償、「恋」

は有償である。

誰かを思い火のように燃え自分までやけどを負いながらも夢を見るのが恋。相手の心も手に入れたいと望む故の感情。相手を思う自分を愛しているだけ。

しかし愛は違います。澄みきった空のように相手を思い、その相手から愛されなくても思い続け照らしてあげたいと願う。相手が幸せであれば、この世界のどんな苦しいことから守ってあげたい。

愛しい人が生きていればこの世界のすべてが優しく見える。

「愛する」とは愛しいものと愛しいものがある世界の現実を想うこと。「恋する」は想っている相手との間にある二人の世界を夢見ること。

「恋」していることを「愛」しているとかんちがいすることが一番悲しいです。真剣に相手を想い愛することが出来ればストーカー殺人なんかおきません。

(このレポートは『人文学フォーラム』の「授業ノート」にも掲載してあります。授業概要もあわせて参照いただければと思います)

蛇足ですが、私の好きな星野富広さんの詩をあげて本稿を閉じることにします。星野さんの文化のレベル

の高さを知ってください。コミュ文
での4年間でこういう気持ちになれ
るといいですね。

「いのちが一番大切だと 思って
いたころ 生きるのが苦しかった
いのちより大切なものが あると知
った日 生きているのが 嬉しなっ

た」

文化を大いに身にまとい、より人
間的にレベルアップし、エレガント
な女性になりましょう。授業でお会
いしましょう。

「ごきげんよう」